

第5回ワークショップの報告

昨年10月21日から始まった辰野町国道153号整備促進協議会のワークショップも最終回となりました。

前回までのワークショップの中で、地域の皆さんが考え、話し合った成果を技術的観点から検証して取りまとめたものを全体で確認しました。

基本方針

■初回ワークショップで確認された、辰野町における道路の将来像

- ・安心、安全に利用できる道路とするために、役割を明確にすることが重要。
- ・生活道路、幹線道路それぞれの役割に応じ、道の連続性や利便性を高め、住民の安心と町の発展につながる道路を考えること。
- ・将来像と現実を段階的に考え、現状の課題を解決する方策を早期に実現すること。

■将来像を実現するために、ワークショップの中で考えた地域の”基本方針”

- ◎通過交通を街中に入れない。
- ◎生活道路の安全を確保する。
- ◎道のつながりを良くする。…まちに人を呼込む。

バイパスが実現しても辰野町の市街地、あるいは住宅地への車の流れが皆無になることはあり得ませんし、幹線道路が整備されれば、現状よりも道路の利用者が増えることも考えられます。中でも観光目的の利用者などを町に呼び込むことや、業務目的の利用者の利便性を高めることで、町全体の活性化を図ることも可能となります。そのため道路を明確に役割づけし、幹線道路と市街地との道路ネットワークを充実したいという地域の願いが込められています。

■地域で考える計画上の留意点

- 国道153号の現道改良は、全線に渡って見直し、将来を見据えたものとする。
- トンネルは町の発展のためには避けるべき。
- 都市計画道路を実現することも検討する。
- 国道153号は現道とバイパスを並行して進めたい。
- バイパスが実現したとしても現道改良は必要→生活道路の改良を優先
- 経済効果よりも地域の安全を優先させる。
- 東側のバイパスは厳しいと思う(JRとのすり合わせ等)
- 新病院へのルートも必要

